

屋久島生態系モニタリング

屋久島南部の植生垂直分布調査 (平成20年度調査)

※標高1200mプロット(湯泊歩道脇)の植生

標高1200mプロットは、湯泊歩道沿いの広葉樹林に設定した。付近は烏帽子岳から西に下る尾根上であり、尾根上の西向き斜面と尾根の南側斜面とに分けてプロットを設定した。平均傾斜は38°、斜面方位はS15°W(南向き)である。

[高木層]第1高木層としてツガ(傾斜木も有り)・スキが優占し、第2高木層としてヤマグルマ・ヤブツバキ・シキミ・ソヨゴ・オノクロキがその下層に混生する。

[亜高木層]サクラツツジ・シキミ・サカキが多く、ヤブツバキ・ハイノキ・オオヤクシマ・シクナゲ・イヌマキ・ヒレギ・イソガシ・スズリなどが混生する。

[低木層]ハイノキが圧倒的に多く、サクラツツジ・シキミ・オオヤクシマ・シクナゲ・サカキなどがそれに続いて出現する。個体数は少ないがイヌマキ・ヒレギ・サカキ・アセビ・ヒサカキも出現する。

[草本層]シカの害が多く、植被率は低くさらに減少傾向にある。雲霧帯の下部に当たり、樹幹上の着生植物が増えている。

[群集および特徴的な出現樹種]イヌマキ・サクラツツジ・ハイノキ群集。

九月一日から七日にかけて、日豪両国のボランティア(豪州六名・日本四名)が滞在し、森林環境維持および希少種の保全活動を行いました。これは、(財)屋久島環境文化財団が、世界自然遺産である屋久島において、オーストラリアの環境ボランティアの団体との連携により、日本の一般市民にも活動を通じた自然環境保全の意識向上および相互の交流を深めることを目的として、(社)国土緑化推進機構とも連携して一国際森林機械

日豪環境ボランティア

屋久島の森林環境維持および希少種の保全活動

「自分が強くなれた気がした」といった声を聞いた。屋久島では、全島的な環境教育の計画を進めており、環境教育ネットワークの活用も進んでいます。ボランティアによる間伐の様子



ボランティアによる間伐の様子

「自分が強くなれた気がした」といった声を聞いた。屋久島では、全島的な環境教育の計画を進めており、環境教育ネットワークの活用も進んでいます。ボランティアによる間伐の様子



H21.9.28

モニタリング調査の植生



H23.9.28

モニタリング調査の植生

モニタリング調査の植生

屋久島の植物



オオバヤドリギ (ヤドリギ科)

木。関東以西に分布する常緑樹。葉の裏面は赤褐色の星状毛が密生するが、表面も緑褐色を混ぜた色をしており、花は筒形で、花被は長さ3cm、外面には赤褐色の星状毛が密生し、内面は緑紫色で外側にそり返る。花期九月〜二月

大学生への森林学習講義



学生との交流の様子

大学生への森林学習講義

大学生への森林学習講義

お知らせ

「九州森林の日」に伴うヤクタネゴヨウ保全のボランティア活動について

林野庁では、平成20年より「美しい森林づくり推進国民運動」に取り組んでおります。

九州各県(沖縄県を除く)では、「九州の森林づくりに関する共同宣言」を行い、その中で、11月の第1日曜日に「九州森林の日」を設定し、国民の共有の財産として森林を守り育て、未来に引き継ぐための具体的な行動を実践することになっています。

屋久島では、絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの種の保存と増殖・復元を目的に屋久島町内の国有林に設定している見本林・採種林において、ヤクタネゴヨウの保護活動に積極的に取り組んでいる、ヤクタネゴヨウ調査隊やボランティアの方々のご参加を得ながら下記日程等によりシカ保護柵の補修作業を実施しますのでお知らせします。

記

- 1 日 時 平成23年11月6日(日) 9:00~12:00
- 2 場 所 屋久島町船行 鍋山国有林110林班 ※集合場所：現地(地図参照)
- 3 募集人員 30名程度
- 4 実施内容 シカ保護柵補修等
- 5 服 装 作業に適した服装、長袖・長ズボン・手袋・地下足袋(又は運動靴)
・ヘルメット(又は帽子)を着用。
- 6 申 込 先 「屋久島森林環境保全センター」又は「屋久島生物多様性保全協議会」

屋久島森林環境保全センター 塚本 徹

屋久島町宮之浦1577-1

FAX 42-0333 TEL 42-0331

屋久島生物多様性保全協議会 手塚 賢至

屋久島町一湊2418-38

FAX (TEL 同) 44-2965

(申し込みは任意の様式で結構ですが、保険加入手続きのため、氏名、電話番号をご記入のうえFAXにてお申し込み下さい。)

- 8 締め切り 11月2日(水)

- 9 その他 小雨決行

- 10 地図

集合場所

